

平成31年2月6日、政策秘書課職員との話です。

## ジブリは福祉

国では、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな第5の社会（Society 5.0）では、IoT（Internet of Things）や人口知能（AI）、ロボットなどの技術を活用することで、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人ひとりが快適で活躍できる社会になるとしています。AIやロボットの進化によって、人間の仕事が奪われるかもしれないというマイナス面ばかりでなく、仕事が減ることで、今よりも自己実現や生きがいのために働ける時間が増え、人生はより豊かになるという考え方もあるようで、「どんな社会になるのだろう？」とワクワクします。一方で、そうした技術の進化によって、スイッチ一つで思い通りになる状態がますます増え、「自分の思い通りにならないのは我慢できない」という価値観の人も、ますます増えるのではないかと心配にもなります。

愛知県では、2022年度に、モリコロパークにおいて、ジブリパークを開園する準備を進めています。私は、ジブリ作品を全部見ているわけではありませんが、私の印象では、「不便な暮らし」「人と人が関わることで感じる幸せ」「自然の大切さ」「思い通りにならないことを受け入れたり、乗り越えたりして成長する姿」を描いている作品が多いように思います。ジブリで描かれる世界の多くは、これからやってくるAIやロボットが進化した社会とは対極の世界です。

私たちは、どんなに快適で便利でも、AIやロボット、人工的な快適な空間だけではきっと満足できないでしょう。なぜなら、「自分の存在を認めてくれる人」「人との関わり」「自然、みどり」を私たちは面倒だと思いつつも、心のどこかで求めていると思うからです。

自分のことを気に掛けてくれる人、話を聞いてくれる人。田んぼを吹き抜ける風、木漏れ日、ハラハラと散る葉っぱ、水辺の風景…。私たちには、どんなときも、心を休めることができる人や空間が必要です。

「**⑤**だんの**④**らしの**①**あわせ」。それが福祉です。

ジブリパークは、「普段の暮らし」を見つめ直すことができる場所になるだろうと思います。そんなジブリパークの地元市としてふさわしい、訪れる人ともあいさつを交わし、関わり合い、自然・みどりがあふれる長久手にしていきたいと思っています。

～市長の話聞いて～

市長から「ジブリパークは福祉なんだ」と聞いたとき、私には最初ピンッ！ときませんでした。それは、私の考える福祉は、まだまだ「施されるもの」「制度」という発想から抜け出せないからでしょう。

2年ほど前の小中学生を対象とした児童生徒福祉作文コンクール」の入賞作品の中に、次のように書いてあったのを思い出しました。

老人ホームに慰問に行って、お年寄りと一緒に歌を歌ったり、クイズをしたりしました。一人のおじいさんが、「来てくれてありがとう。」と涙を流してくれました。私は驚いて、その訳を聞くと、おじいさんは「家族と離れて、知らない人の中で暮らして寂しい。」と話してくれました。私は、ただ聞いていただけだったけど、そのおじいさんは、最後に「聞いてくれてありがとう。すっきりしたよ。」と笑ってくれました。

話を聞くだけでも、誰かを楽な気持ちにすることができるのだと不思議な気持ちになりました。「聞く」ということも福祉なんだと思いました。

「ふだんの 暮らしの しあわせ」

そういう視点でとらえれば、福祉は、制度でも特別なことではなく、誰にでも関係することで、周囲の人の為に自分ができることから始めることなんだと改めて思いました。